

〈解答〉

- ① 1 イ→エ→ア→ウ (完答)
2 徴兵令
3 日米修好通商条約
4 領事裁判権〔治外法権〕
5 ア
6 エ
7 〔例〕ベルリンの壁が崩壊した
8 南北問題

配点 ① 1, 7は各2点, 他は各1点 10点満点

〈解説〉

- ① 1 イは1872年, エは日清戦争の前ごろから始まり, 綿糸紡績などの軽工業において, 機械による大量生産が行われるようになった。アは1901年に操業を開始した。ウは1914年に始まった第一次世界大戦によって, 日本経済は好況になり, 国内の工業生産額が大幅に伸びた。特に重化学工業が発展し, なかでも鉄鋼の分野は生産量が大きく増加した。
- 2 明治新政府は, 強兵のためには, それまでの武士中心の軍隊ではなく, 国民による西洋式の軍隊をつくる必要があると考え, 1873年に徴兵令を出し, 満20歳になった男子から徴兵を行った。
- 3 井伊直弼は1858年に日米修好通商条約を結び, 函館, 神奈川 (横浜), 長崎, 新潟, 兵庫 (神戸) の5港を貿易港として開き, 外国人居留地での自由貿易を認めた。この条約には, 関税自主権がなく, 領事裁判権を認めるなど, 不平等な側面があり, 明治時代になって大きな外交問題となった。
- 4 1886年におこったノルマントン号事件では, 日本人の乗客を救助しなかったイギリス人船長を日本側で裁くことができなかつたため, 領事裁判権の廃止を求める世論が高まった。その後, 政府は, 1894年, 陸奥宗光外相のときに日英通商航海条約を結んで, 領事裁判権の廃止に成功した。
- 5 満州にいた日本の軍隊は, 1931年, 奉天郊外の柳条湖で南満州鉄道の線路を爆破する事件をおこし, 中国側のしたこととして攻撃を始め, 満州全体を占領した。これを満州事変という。イ是北京, ウは青島, エは上海である。
- 6 犬養毅は, 軍部の行動をある程度容認していたが, 議会政治を守ろうとしたため, より軍部主導の政治を求めた青年将校らが反発し, 1932年5月15日, 海軍の青年将校らが首相官邸を襲い, 犬養毅首相を殺害した。この五・一五事件以降, 政党政治はとだえた。
- 7 1989年, 冷戦の象徴であったベルリンの壁が取り払われ, アメリカとソ連の首脳会談であるマルタ会談で冷戦の終結が宣言された。

8 発展途上国と先進工業国とで豊かさに大きな差があること、また、そこからおこる問題を、南北問題という。